

### 【凡例】

"-"(ハイフン)は、語幹と活用語尾、複合語中の形態素の結合を示すものとする。

### 【語順】

\*支配的語順：SVO

ただし語順は柔軟に変更可能

### 【代名詞関連】

\*「彼ら」を中性単数形として用いることで、「彼または彼女」という意味を表す。

\*指示対象の性が明らかでない場合、指示代名詞や疑問詞は文法上中性扱いとなる。これを「中性基準の原則」と呼ぶことにする。

\*指示代名詞に"-ke"を付けると副詞になる。ただし、単体で副詞として使用することも可能。

\*再帰代名詞は、"代名詞属格-tekum"で導き出せる。性はかかる名詞と一致。

### 【名詞関連】

\*借用語の性は、借用元に準ずる。

ただし、以下の場合は上述の「中性基準の原則」が発動する：

\*借用元の言語に明確な文法的性がない場合（英語、日本語など）

\*共性名詞

\*動物名詞

\*その他、生物学的性ないしジェンダーに関連しない名詞クラス全般

### 【修飾語関連】

\*形容詞、動詞連体形、名詞属格は後置修飾。

\*代名詞属格、指示代名詞は前置修飾。

\*副詞は基本的に後置修飾であるが、程度副詞は前置修飾。

例：mogo, gori, tyok

### 【動詞関連】

\*動名詞は不定詞と同形。性は中性扱い。

\*助動詞に後続する動詞は、不定形または動名詞となる。

\*reras（～できる）はどちらも可。動名詞（対格）を用いると文意が強調される。

\*wareb（～したい）には通常は不定形を用いるが、動名詞（対格）を用いても非文にはならない。ただし非推奨。

\*guras（～せねばならぬ、するはずだ）は不定形のみをとる。

\*sumatt（～すべきだ）は不定形のみをとる。

\*mokom（～しはじめる）はどちらも可。動名詞（対格）を用いる場合、「～するようになる」というニュアンスを表す。

\*puk（～し終える）はどちらも可。動名詞（対格）を用いる場合、「～しなくなる」というニュアンスを表す。

### 【構文関連】

\*Aである

der (コピュラ) A (いかなる場合も主格)

\*～される (受動態) :

kes + 過去連体形 (主格)

\*Aによって (行為者) :

ze A (奪格)

\*A～とともに :

zaru A (奪格)

\*～になる :

kes + 名詞、形容詞、連体形 (いずれも与格)

\*～する予定である :

kes + 動名詞 (与格)

\*～したことがある (完了相) :

der (コピュラ) + 過去連体形 (主格)

\*～している (進行相) :

der (規則活用) + 連体形 (主格)

\*Aのような :

take A (属格)

#### 【分離詞"a"について】

分離詞"a"には次の機能がある :

\*後続する文を従属節とする (英語のthatに相当)

\*名詞句を標識する。aによって標識された句に含まれる名詞ないし形容詞は、原型をとることができる。

#### 【固有名詞関連】

\*ネラワリ人の名は

名- (活用語尾) 姓- (活用語尾)

のように活用する。

\*ネラワリ人以外の名は

名-姓-活用語尾

のように活用する。

\*ネラワリ以外の地名は中性扱い。

\*ネラワリ語の地名の性は、それぞれ異なる。

例) Nerawari(m.) Kunug(f.)

#### 【造語関連】

\*動詞、形容詞、地名などに"-ar"を後続させて「～する者」のような名詞を作ることがある。

\*名詞、動詞、副詞などに"-k"を後続させて「～的な」のような形容詞を作ることがある。

\*名詞、動詞、形容詞などに"-ke"を後続させて「～的に」のような副詞を作ることがある。

\*形容詞に"-zir"を後続させて「～さ」のような名詞(m.)を作ることがある。

### 【音韻規則】

\*語末に子音がある場合、直前の母音を挿入する。直前に母音がない場合、aを挿入する。

\*子音が連続する場合、基本的に後続の子音が先行する子音を逆行同化する。

つまり、C1C2は、実際にはC2C2と読まれる。

ただし、

\*C2がhである場合、これは完全に黙字扱いとなり、C1のみが読まれる。

例えば、nhはn、shはsと読まれる。

\*C2がy,w以外の有声音である場合、C1はC2に対応する撥音となる。

例えば、krはnr、tbはmbと読まれる。

\*借用語において、語頭に多重子音がある場合、多重子音を構成する最後尾の子音以外は黙字となる。